

関係委員意見聴取書面	
関係委員 (敬称略)	(所属)神奈川県温泉地学研究所 専門研究員 (氏名)板寺 一洋
聴取日	平成26年6月4日(水)
聴取者	環境省 総合環境政策局環境影響審査室 田中審査官 自然環境局自然環境整備参事官室 永井参事官補佐、楠本温泉保護係長
要領4.(2)利害関係者の除外	
<ul style="list-style-type: none"> 意見聴取しようとする事業に係る利害関係の有無。 利害関係 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 	
要領4.(3)秘密保持の承諾	
<ul style="list-style-type: none"> 環境影響評価法手続に基づき作成される図書に含まれる希少な動植物種の生息・生育地の情報その他の秘匿すべき情報を外部にもらさない旨の承諾。 <input checked="" type="radio"/> 承諾 ・ <input type="radio"/> 非承諾 	
< 関係委員意見概要 >	
1 温泉と地熱貯留層の関係について	<ul style="list-style-type: none"> 地熱系概念モデルは詳細な調査を元に作成したものであり、これを根拠としてすることは理解するが、あくまでも現状の予想図であることを認識することも必要。 過去の文献では、採取予定の地熱貯留層と周辺温泉の関連性が低いとされている。 地熱系概念モデルで示されたキャップロックがある前提に立てば、地熱発電所による熱水採取予定の地熱貯留層と周辺温泉の温泉帯水層の関係上、施設の稼働による温泉への著しい影響が及ぶ可能性は低い。
2 .モニタリングについて	<ul style="list-style-type: none"> C温泉など地熱貯留層と間接的なつながりを否定できないものもあり、また温泉によっては地下の熱源に変動があることにより、影響を受ける可能性もある。そのため、地熱発電所の運転開始後も温泉への影響についてモニタリングを行い、影響を監視していくことが重要。準備書における温泉への影響の有無・程度についての予測・評価は、(酸素・水素)同位体比によるところが大きいので、モニタリング項目に同位体比を加えることを検討すべき。

3. 補充井について

- ・ 補充井を掘削する場合には、その補充井が必要となった原因の検証が必要である。なお、検証にあたっては、その量、温度、主要成分及び同位体比の評価を行うこと。